平成26年度 地域情報化セミナー

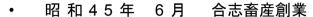
ITを活用した『アニマルウェルフェア』飼育の取組み







会 社 概 要



平成4年9月セブンフーズ(株)設立

平成14年10月 認定農業者の認定

平成15年1月 セブンシステム式農場稼働

• 平成17年 9月 農業生産法人認定

平成18年2月 セブンシステム式農場で特許を取得

平成19年2月 農林水産省モデル支援事業承認

平成20年 1月 大津農場稼働(常時飼養頭数5,500頭)

平成20年7月 旭志農場稼働(常時飼養頭数6,500頭)

平成20年12月 杉水農場リキッドシステム稼働

平成22年11月 大津第二農場稼働(常時飼養頭数6,000頭)

平成23年10月 阿蘇肥育農場稼働(常時飼養頭数6,000頭)

• 杉 水 農 場 菊池郡大津町杉水375-1

• 大 津 農 場 菊池郡大津町矢護川網迫3487-1

旭志農場(本部) 菊池市旭志麓迎原2105

· 大津第二農場 菊池郡大津町矢護川3280-1

阿蘇肥育農場阿蘇市波野大字波野1899

• ひ か り 農 場 菊池郡大津町矢護川664-6

• 代表取締役 前田佳良子

熊本県農業法人協会副会長 熊本県指導農業士 ㈱セブンワークス代表取締役





- 代表取締役 前田佳良子
- 専務取締役 合志 文利
- 資本金 22,000千円
- 売上高 1.664,000千円(平成25年度)
- 従業員数 73名(26年4月現在)
- ・ 関連会社 株式会社セブンワークス

• 代表電話 0968(37)4133

• FAX 0968(37)4134

• E-mail <u>sevenfoods@sand.ocn.ne.jp</u>

URL http://www14.ocn.ne.jp/~sevenfoo/

経営理念

- 日本の食を守る
- 次世代を担う農業界の人材育成に貢献する
- ・ セブンフーズ式農業を通じて環境保全および地域に貢献する

農場施設紹介



愛情飼育 アニマルウェルフェア

「アニマルウェルフェア」? 聞きなれない言葉かもしれません。日本語で、「動物福祉」と訳されます。 そもそも牛や豚などの産業動物の「酷使による虐待の防止」にことを発した動物保護の概念で、「快適性に配慮した家畜の



飼養管理」と定義されています。ヨーロッパでは広く一般的に普及しています。セブンフーズでは、この概念に沿った様々な取組みをしています。

昇降式分娩ゲージ「バリ・プラ ス」

(大津第二農場)

昇降式分娩ゲージ

分娩舎では子豚を下敷きにして殺してしまう「圧死」という 事故が起きてしまいます。昇降式分娩ゲージでは、母豚が 立ち上がると床が30cmほどせり上がり、子豚勝ち被けなく なります。これにより子豚を圧死から守り生産性の向上に 寄与します。

「フリーストール」を実 に大津第二農場)

母豚に装着したICタグで、群での飼養を可能とし、広い豚房で自由に活動できる環境で、母豚のストレスを軽減します。



オートソーティングシステ (Mts.) 人

オートソーティングシステムを採用することで、広い豚舎でも ストレスを与えることなく飼育することが可能となっています。 また、出荷の均一化が図られ

品質の安定化に寄与します。





愛情飼育 アニマルウェルフェア



エコフィード 循環型農場へ



なぜ未利用資源を飼料化するのか?

・ 日本では食品を製造する過程や食品の流通段階で発生する食品 残さ(食品廃棄物等)が、年間1134万トン(平成19年度)発生して います。このような未利用資源を飼料化し、家畜のエサとして利用 することは、食品自給率の向上にも寄与するばかりでなく、地球に やさしい資源循環型社会を形成するためにも重要なことです。

液体飼料工場

(大津第二農場)



食品リサイクルの活用を推進するため、 リキッドフィーディングシステムの給餌に 取組んでいます。独自配合飼料とバイプ ロを使用し、豚の健康管理を目指します。



リキッドフィーディングとは

液体飼料化

・幅広い種類の未利用資源の受入

加熱処理

・加熱殺菌による品質の管理

ph の 調 整

• 液体飼料の保存性の向上





嗜好性が高く、 消化の良い 飼料

食品循環資源の循環ループの構築

■原 料

パン類・米類・麺類・惣菜類・ 弁当類・菓子くず・焼酎粕・乳 製品等の工場残さ

■お取引企業

大手食品メーカー・弁当工場・乳業メーカー・焼酎工場等 65社程度(H26.4現在)

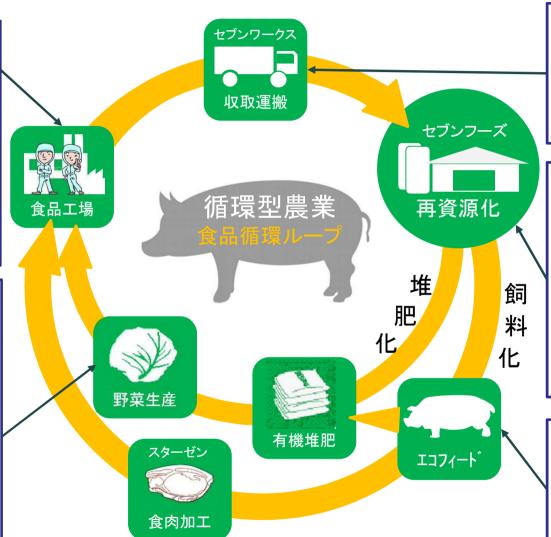
■受入数量

月間1,3005,程度(H26年)

■有機肥料製造

発酵床の再利用・食品残さの 堆肥化で年間 約2,500%の 有機肥料を生産。

- ■自社で野菜の生産 大津・阿蘇農場周辺の自社 耕作地10haで、生産した有 機肥料を使用し、キャベツを 中心とした野菜を生産。 野菜生産量 年間320^トシ (26年度見込)
- ■国産飼料米の取組み H26年度は27戸の農家と48 haの飼料米契約を結ぶ。農 家は有機肥料を利用。



■セブンワークス 収集運搬を担当 産業廃棄物収集運搬許可 熊本・福岡・長崎・佐賀・大分 宮崎・鹿児島・山口・広島・岡 山・兵庫・大阪・京都・滋賀・ 愛媛・香川等 18都道府県

- ■各種処分業の許可 産業廃棄物中間処理施設 (飼料化・堆肥化) 一般廃棄物処分業許可 (熊本県大津町) 再生利用事業登録(飼料化)
- ■エコフィード飼料 国のエコフィード飼料製造マニュアルに沿った安全な飼料 製造。製造量、年間7000℃ (配合飼料換算カリーベース)

■リサイクルループ構築 (例)冷凍餃子工場の野菜くずを受入→エコフィード→堆 肥化→キャベツ生産→餃子 原料供給等。食品循環ループ構築を目指す。

セブンフーズ のブランド豚

セブン育ちの豚肉おいしさの理由は?



環境に配慮した農場で

バイオベット(発酵床)を利用したセブンフーズ式農場で、自然環境に近い飼育環境を実現。のびのび、すくすく育っています。



愛情飼育ストレスフリーで

アニマルウェルフェア、愛情飼育を実践、ストレスの 少ない飼育に取り組んでいます。



独自の餌のこだわりで

自ら飼料設計を行った、安心安全な自家配飼料や エコィード飼料で肥育、脂身がおいしくなる飼料米も 配合してます。





前田社長(左から2番目) と未来会メンバー

肥養 あそび原



宗宗村とん

